



荒瀧議員

### Q 熊野町総合計画について

A 「ひと」「まち」に新たな成長を生み出す熊野町を目指している（三村町長）

第5次へは、序論で整理し、施策において現況・課題として掲げ、施策の方針、具体的施策へ反映している。将来像では、新たなまちづくりに向け、「ひと」「まち」に新たな成長を生み出す熊野町を目指し、「ひとまち育む筆の都熊野」とした。

ソフト部門は、一定の環境整備は整ったと考えている。ハード部門では公共施設の整備で成果がある一方、道路交通環境の整備が一部遅れている。また、「筆」については、筆の里工房を中心に、発信力強化や交流人口拡大に実績を上げたが、筆産業は厳しい状況。本町での筆の在り方が問われている。

第4次総合計画について、総括、評価、反省点を伺う。また、第5次には、どのような形で受け継いでいるのか。将来像は。



民法議員

### Q 第5次熊野町総合計画について

A この「まち」に愛着を持ち誇りに思う魅力的なまちづくりを行う（三村町長）

この将来像を実現し、住民がこの「まち」に愛着を持ち誇りに思う、満足度の高い魅力的なまちづくりを行っていく。

町広報へ掲載し、概要版を町内全世帯に配布。町ホームページにも準備している。また、今年度は、町内14地区で地域懇談会を開催するため、計画の概要を説明したいと考えている。

目指す将来像は「ひとまち育む筆の都熊野」。高い教育力を持つまちづくりを推進し、人々が活躍できる「まち」や、道路や交通などの基盤づくりを進め、魅力あるまちづくりを推進し、暮らしやすく、定住交流のまちづくりを目指したい。

計画内容を周知する説明会などの予定は。また、5年後、10年後の町の姿をどう捉えているか。



藤本議員

### Q 町内巡回バスについて

A 平成24年度には試験運行をやりたい（三村町長）

有償の場合には、停留所や待避所をつくる必要があり、町内の道に設置することとは大変困難。また、多額の費用も必要。一度、試験運行をし、結果を見て問題点を整理していきたい。

報道では交通弱者への無料バスとあったが。

生活交通においては、関係機関と協議を行い、今年度の地域懇談会等による意見や新たな課題、問題点を整理し、特に運行ルートなどの検討は、住民の方々にも加わっていただくことを予定している。来年度には、試験運行をやりたい。

町内巡回バスの進捗状況を伺いたい。



大瀬戸議員

### Q 公共交通の今後のあり方

A 利用者の増加が図れる方策を研究していきたい（三村町長）

今後も、効率的で利便性の高いバス路線網の構築を検討し、利用者の増加が図れる方策を研究していきたい。

本町では、路線バスが住民生活に大きく影響し、今後の町の維持発展を左右する大事な要素である。バス事業者は、利便性が損なわれない範囲で路線やダイヤ変更を行うとともに、採算性を見据えながら効率化を進めている現状である。町としては、広電阿戸線へ補助するとともに、沿線地域の方々と協議会を設立し、イベントを実施するなど利用促進に努めている。

公共交通の重要性の認識と現状の把握状況、近い将来の総合的な概念を伺う。